

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100427
法人名	株式会社 ことぶき
事業所名	グループホーム ゆうかの里
所在地	松山市北条辻9 2 2 番地 3
自己評価作成日	平成22年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1人ひとりの個性を大切に、その人らしい生活が送れるよう家庭的な雰囲気やなじみ育った我が家の暮らしのような日々が過ごせるよう努める。又、寝たきりにせず安心して暮らせるように努力をする。事故のないように介護を心掛けています。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人代表者は「愛」を理念に挙げて、日常的に「愛」について、職員に語っておられる。又、法人代表者の「愛はすべてオアシスである」との考えのもと「オハヨゴザイマス」「アリガトゴザイマス」「シツレイシマス」「スマセン」「愛あるあいさつ宣言」を事業所内に掲示して、心を込めたあいさつを行う「オアシス運動」をすすめておられる。地域の方に対しても心を込めたあいさつを交わすことによって、事業所が地域の一員となれるよう努めておられる。</p> <p>法人代表者は、小・中学生の登下校の時間帯に事業所前に立ち、あいさつを交わしたり声かけをしておられ、子ども達にも事業所を知ってもらえるように取り組まれている。秋祭りには、事業所の駐車場に御輿が来てくれて、利用者は見学された。中学生の「福祉体験学習」で10名ほどの中学生を受け入れておられ、生徒は、職員に質問したり、利用者とお話しながら交流された。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけられている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	ゆうかの里
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	小笠原 睦子
評価完了日	22年 11月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は各ユニットに掲示しており、職員会議においても法人代表が毎回理念を再確認している。 (外部評価) 法人代表者は「愛」を理念に挙げて、日常的に「愛」について、職員に語っておられる。又、法人代表者の「愛はすべてオアシスである」との考えのもと「オハヨウゴザイマス」「アリガトウゴザイマス」「シツレイシマス」「スミマセン」『愛あるあいさつ宣言』を事業所内に掲示して、心を込めたあいさつを行う「オアシス運動」をすすめておられる。地域の方に対しても心を込めたあいさつを交わすことによって、事業所が地域の一員となれるよう努めておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭では神輿が当事業所へ訪れられ、利用者や職員は神輿と一緒に写真撮影を行った。また運営推進会議への地域住民の参加は毎回出来ており、会議時にも地域の事についての話し合いなども出来るようになってきた。 (外部評価) 法人代表者は、小・中学生の登下校の時間帯に事業所前に立ち、あいさつを交わしたり声かけをしておられ、子ども達にも事業所を知ってもらえるように取り組まれている。事業所で行われた敬老会には、地元のボランティアの方が日舞を披露してくださった。秋祭りには、事業所の駐車場に御輿が来てくれて、利用者は見学された。中学生の「福祉体験学習」で10名ほどの中学生を受け入れておられ、生徒は、職員に質問したり、利用者とお話しながら交流された。	法人代表者は、日頃の地域とのかかわりについて「地域の方に事業所の存在を認識してもらえ、認めてくださるようになった」と感じておられる。今後は、尺八や三味線のボランティアの方が来てくださったり、幼稚園や保育園との交流もすすめていく予定である。さらに「老人クラブや公民館等の行事にも参加していきたい」と考えておられた。利用者がいろいろな地域の方と交流しながら、暮らし続けていけるような支援に工夫を重ねていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地元中学生の実習を受け入れたり、運営推進会議時の話し合いなどを通じて認知症への理解を深めて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアプランについての取組みに関して運営推進会議 で発表する機会があった。また毎回会議時には管理者 から地域住民や地域包括支援センター、家族の代表の 方や松山市役所職員に対して、利用者の状況を報告し ている。</p> <p>(外部評価) 会議には、区長や民生委員の方にも参加していただ いている。会議の開催日時、場所、議題等を記した案内 状をメンバーに送付し、欠席する方は、事業所に連絡 をいただくようになっている。会議では、民生委員の 方に「民生委員の仕事について」話していただいた り、ご家族の代表者に「利用者家族の思いについて」 話していただき、意見交換することもある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村担当者から定期的に内部を見学してもらい、法 人代表や管理者、職員や利用者へ聴取を行って、そこ で生じている問題点等を一緒に改善していこうと取り 組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議に参加していただい ている。「利用者家族の思い」を議題にして、意見交換 した際には、職員と家族のコミュニケーションについ て「何でも言える関係作りが大切」とアドバイスをい ただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間時のみ施錠を行っているが、日中は施錠は行っ ていない。身体拘束についての勉強会は開催予定とし ているが、日常ケアにおいてケアマネ等が職員へ指導 を行っている。</p> <p>(外部評価) 「外へ出たい」と希望する利用者には、職員が同行し て出かける等、ご本人が納得がいくまで付き添うよう にされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法等についての勉強会を開催し、職員間で話し合いをして、虐待防止に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだ開催はされていないが勉強会をする予定としている。現段階ではそれらのことについてはあまり知識がないと考える。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 必ず契約書を読み上げながら丁寧に説明を行い、疑問や不安等がないか一つ一つ確認しながら契約を締結している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見要望については管理者が窓口となって聞き入れている。また家族が他の職員に意見要望を言われた時にも管理者へ報告している。それらの意見要望は管理者と職員が話し合いをもち、出来るだけ対応できるように努めている。また直接言いにくい方のために意見箱を設置し、意見要望を逃さないように努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、利用者の暮らしぶり等を伝え、来訪の難しいご家族には、月に1度電話で、ご本人の様子を報告されている。近々、「ホームだり」を発行する予定になっており、年間行事や日常の利用者の表情がよくわかる写真を載せて、作成しておられるところである。12月には、事業所でクリスマス会を行い、家族会も開催するよう計画をすすめておられる。	 事業所では、「気付いたことは気軽に言ってください」と、ご家族に伝えておられるが「良くしていただき、ありがとうございます」等、感謝の言葉をいただくことが多く、運営やケア等についてのご家族の声はあまり聞かれないようである。運営推進会議に欠席のご家族にも、会議の内容を知らせたり、ご本人の様子についても現状に即した報告ができるよう努められ、意見等を出す機会作り工夫を重ねていかれてほしい。又、ご家族の知りたいことや心配・不安に思われていること等についても、話し合えるような機会を作られてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議には職員に対して意見を募り、対応している。また月に2回の管理者会議時にも代表者と管理者が話し合いを持ち対応している。	
			(外部評価) 利用者個々の日々のケアについては、毎朝の申し送り等に、職員間で意見を出し合い、話し合っておられる。外部研修の受講後は、受講した職員が職員会議の中で伝達講習をされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) キャリアパス制度を導入予定しており、働きやすい環境整備を行い、仕事にやりがいを感じられるように改善している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修参加者は研修報告書を作成し、その報告を職員会議時に発表するように努めている。また法人内の勉強会をケアマネが主催して開催しており、将来的には全職員が開催できるようにしていく。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設への訪問見学を行っており交流範囲を広げる努力をしている。また北条地区サービス調整会議にケアマネが参加しており、他事業者との交流を深めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時には必ずケアマネが本人と話をし、アセスメントを行っている。特に不安に感じていることがあれば、少しでも早く取り除けるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所相談段階から家族と話し、困ったことや不安な事、要望を聞き、説明を行っている。またそれらの事はアセスメントに反映している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所初期は不慣れな点が多く不安を感じやすい為、ケアプランにニーズとして取り込んでいる。また入所して最初のケアプランは期間を1ヶ月程度に設定し、入所生活が始まってからモニタリングを行い対応している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ひとつ屋根の下で生活を共にしていることを常に意識をして業務にあたっている。声掛けやケアの中で工夫している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>出来る限り家族の協力を得ながら利用者を支えていけるようにケアプランに取り込み、支援を行っている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>以前の近所の方や兄弟等が訪れやすい雰囲気作りをして、面会しやすい環境を作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人からお墓参りの希望があった時には、職員が同行して出かけられたり、初詣は、利用者個々の氏神の神社にお参りできるよう計画をされていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 水分補給や食事時はホールへ誘導し、その方のペースにあわせて離床時間を考慮している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族が遠方にしかなく、利用者が入院中に亡くなった時に家族の支援が得られなかったときがあり、茶毘に付されるまで職員が対応した事があった。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向は日常ケアにおいて本人の言葉やサインを察し、把握に努めている。またその方の生活歴をなるべく多く把握し、快適に過ごすことが出来るように努めている。	
			(外部評価) 入居時に「フェイスシート」を作成され、ご本人の生活歴等の情報をまとめておられる。日々の中で職員が聞き取ったこと等も記入されており「なるべく自分のことは自分でしたい」等のご本人の生活への希望も記しておられた。 この一年には、ケアマネジャーの交替があり、ケアマネジャーは「利用者一人ひとりのことをもっと知っていきたい」と話しておられた。事業所が目指す介護サービスが実践できるよう、利用者個々の生活歴や暮らしへの希望、又「できること・できそうなこと」等のアセスメントの充実をすすめ、利用者個々の「その人らしい」暮らしを支えていけるよう、介護計画につなげていかれてほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシート作成時に把握に努めている。また実際のケアの中で昔の話を伺ったりして情報を収集している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック、日常生活の記録の徹底を行い、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族、職員などに意見を求め話し合いをし介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、ご本人・ご家族の希望を聞き取り、ケアマネージャーと管理者、職員の計3名で話し合い作成されている。計画は、入居当初1ヶ月で見直し、その後は、3ヶ月毎、6ヶ月毎とご本人の状態等に応じて見直しを行う期間を決めておられる。モニタリングは、職員が記録した「経過記録」に基づいて、ケアマネージャーが毎日行っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>申し送りノート等を活用し、情報の共有に努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプランにあるサービス内容にとらわれず、要望等があれば柔軟に対応できるよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近所の公園への散歩などで利用者に対してはこの地域に住んでいるという意識を持って頂いている。また今後も地域行事への参加をしていき、資源の拡大に努める。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主治医との連携は密にとっており、異常などがあれば すぐに連絡できる体制をとっている。また本人や家族 が納得できるように主治医の決定は任せている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ほとんどの利用者の方が協力医をかかりつけ医とされ ている。協力医は、24時間対応してくださるよう になっており、歯科、整形外科も、往診していただ けるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員に看護師を配置しており、介護職員が日常ケア や健康状態に関して相談できるようにしている。また必 要時は看護師が受診の付き添いや、主治医との連絡を とっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院時にはサマリーを作成し情報提供を行い、分 からない事等は相談できるようにケアマネが対応して いる。また長期入院が予測される場合は医療と円滑に 連携できるように、病院の医療連携室等を活用して いる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時にはサマリーを作成し情報提供を行い、分 からない事等は相談できるようにケアマネが対応して いる。また長期入院が予測される場合は医療と円滑に 連携できるように、病院の医療連携室等を活用して いる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>重度化の傾向がある時は早急に家族と相談して、今 後の方針を話し合うようにしている。また契約時にも 看取りに関する当法人の考え方等を説明し、同意書に サインを頂いている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化の傾向がある時は早急に家族と相談して、今 後の方針を話し合うようにしている。また契約時にも 看取りに関する当法人の考え方等を説明し、同意書に サインを頂いている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>看取り支援は「その方の人生にお付き合いするもの」との事 業所の考えのもと、入居時に「事業所としてできること」「事業 所での看取りが可能なこと」を利用者ご家族に説明してお られるが、現在は、事業所で最期を迎えることを希望する方 はいないようだ。家族会時等に終末期のあり方や看取りにつ いて話し合ったり、ご本人やご家族の思いや意向をお聞きし たり、ご家族が心配なことや不安に思っていること等につ いて、率直に話し合うような機会を作ってみてはどうだろうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時は速やかに管理者への報告相談を行うようにしている。また管理者は看護師やケアマネと連携して対応するようにしている。勉強会を開催し定期的に確認していく予定だが、まだ開催はされていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練は近日実施予定としている。緊急連絡簿を電話の側に掲示し、すぐに対応できるように努めている。また運営推進会議時にも非常時に地域の方に協力が得られるように話し合いをしている。 (外部評価) 運営推進会議時に、「日中・夜間に火災が起きた場合」それぞれ職員の対応手順を説明して、区長や民生委員の方に、いざという時の協力をお願いされている。12月には、消防署の協力を得て夜間想定避難訓練を行う予定になっている。2階の利用者の避難方法についているような場面を想定して訓練を重ね、安心安全に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会を通じて、利用者を尊重するケアを実践するように努めている。ケアの中で馴染みの関係の上での「狎れ合い」にならないように留意している。 (外部評価) 法人代表者は「金融機関の接遇をお手本にしたい」と近くの銀行から「接遇マニュアル」をお借りして、近々、事業所内で勉強会を行う予定となっていた。調査訪問時、職員は、利用者「ちゃん」と呼んでいた「ちょっと待って」と言っているような場面も見られた。	「愛」を持って対応することを大切にされている事業所でもあり、この機会に日常の職員の利用者への対応を利用者個々の立場に立って、振り返ったり点検し合って、さらなるケアの質向上に努めていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声掛けの仕方の工夫で自己決定の原則を守るように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴等の日常ケアはなるべくその方のペースにあわせて提供するように努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その方の生活歴を踏まえて、好みの身だしなみが出来るように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理に関して利用者が関わることはほぼ皆無だが、後片づけ等で利用者が出来る範囲での手伝いはしてもらっている。今後の課題と考えている。 (外部評価) 以前は、事業所ですべての調理を行っていたが「栄養のバランス」のことや「業務上の都合」等もあり、現在は、業者から栄養士が立てた決まった献立の下ごしらえされた食材が届くようになっていて、事業所では、主食と汁物を作るようになっている。調査訪問時、昼食に「魚が食べたい」と、利用者から希望があったようで、魚の煮付けを事業所で作っておられた。職員も、利用者と同じ食事を食べるようにされ、時には、利用者のご希望で、主食をおすしやカレーにすることもあ。調査訪問時、昼食前に体操をした後「むすんでひらいて」の歌を皆で歌い、食事を始めておられる様子うかがえた。	法人代表者は、「食事作りの形態がこのままでよいのか」と考えておられた。食事を楽しむための支援について、利用者の力を活かした支援等、職員で工夫や配慮できることはないか話し合ってみてほしい。又、食事一連の流れに沿って、利用者一人ひとりの「できることできそうなこと」「関心のあること」等をアセスメントしながら「事業所の食事支援のあり方」について、話し合ってみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養や献立についてはきちんと計算されて作られている。また一人ひとりの身体状況に合わせて食事が提供されている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 可能な利用者に対しては声掛けを行い歯磨きをして頂くようにしている。自力で困難な方は職員が歯磨き介助したり、義歯洗浄をしたり、含嗽を促したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握しトイレ声掛け、誘導を実施し失禁の減少に努めている。オムツ使用されている方にも出来るだけトイレに座って頂き排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を記録し、利用者個々の排泄パターンを把握されている。入居前にオムツのみを使用されていた方がおられたが、入居後、トイレに誘導して排泄支援を繰り返し、現在はハビリパンツを使用して、ご自分でトイレで排泄できるようになった事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量の把握、運動の実施の声掛けを通じて便秘の予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に入浴日は曜日で決定している。しかし要望があったり、必要があれば随時入浴は実施している。今後の課題と考える。	
			(外部評価) 週2回、曜日を決めて入浴されている。ご家族の希望があり、週3回入浴される方もいる。1階は、浴室の入り口に段差があり、跨いで入室することが難しい利用者の方がおられ、脱衣所に簡易浴槽を設置し、簡易浴槽の中で洗身したり温まっていたくようにされている。入浴日以外は、利用者全員足浴を行い、利用者に喜ばれているようだ。 職員は、利用者全員にゆったりとお風呂に入っていたきたいと考えておられるが、ハード面の改善には難しさもあるようだ。利用者がより気持ちの良い入浴ができるよう、事業所で工夫や配慮できることはないか話し合ってみてほしい。又、家族会や運営推進会議時にも実情を報告したり、意見やアイデアをお聞きしながら取り組みに反映していかれてほしい。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないようになるべく昼間は起きて頂くようにしているが、原則その方のペースに合わせて休息がとれるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情を確認し、内容を把握している。また誤薬が起こらないように、職員が丁寧に確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方らしい生活を送ることが実現出来るようにケアプランに取り込んでいる。また生活歴や本人の希望等を参考にし、随時実現出来るように努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 可能ならば家族の協力を得てなるべく希望に沿った支援を行っている。また個別に散歩の支援を行う等の工夫をしているが、外出回数は現状少ないと考える。今後の課題と考える。	
			(外部評価) お天気のよい日には、事業所周辺を散歩できるよう支援されている。近くの公園まで出かけた際には、プランコに乗って楽しめる方もいるようだ。車椅子を使用している方も、月に数回は外に出かけられるような機会を作っておられる。最近まで、事業所の近くに畑を借り野菜作りや収穫を楽しんでおられたが、畑の管理が難しくなって来たこともあって、現在は畑はお返しして、プランターの植物の水やりや草引きをされている。	車は法人の他事業と共用で、外出時にはタクシーを利用することもあり、日常的にちょっと車で出かけるというようなことは難しい状態である。法人代表者は「今後初詣に出かけたり、春のお花見をお弁当を持って出かける等していきたい」と考えておられ、又、職員は、「秋は奥道後の菊花展に出かけるなど、季節ごとの外出を支援していきたい」と話しておられた。歩いて行って楽しめるような場所の開拓や又、利用者個々の行ってみたいところを探り、支援していけるような環境作りにも取り組んでいかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は管理しないが、少額の金銭を所持する利用者はいらる。買い物や面会時の孫のお小遣いなどに利用されている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は要望があれば職員が必要な支援を行い、電話できている。手紙に関しては利用者の要望が無いが、あれば支援を行っていく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の花を活けたり、明るすぎず暗過ぎないように調光している。ホールのTVは時代劇中心に利用者が好むので付けていることが多い。食事中は静かな音楽をかけて食事に集中できるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の玄関には、「愛」という花言葉を持つ「薔薇の花」を生け、理念を掲示されていた。利用者手作りのかぎ針編みの服を着せたキューピー人形が並べて飾られてあった。1階ユニットは、道路側部分がガラス張りになっており、これまでカーテンをされていたが「利用者が閉塞感を感じるのではないか」との職員の意見もあり、最近は、カーテンを開けておられる。調査訪問時、居間で新聞を読んだり、居間の一角のソファに手をつないで座っている利用者の姿があった。2階ユニットで車いすを利用している方が上がり降りされる際には、職員やボランティアの方がご本人を抱えて移動している。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食堂と共用スペースが兼用しているため独りになる空間の確保は困難であるが、利用者同士で交流が出来る和やかな空間づくりに努めている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>昔からの馴染みの物があれば持ち込んで頂き、本人が快適に生活できるように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族が持って来られた花を花瓶に生けてある方がおられた。ご本人が鏡を見ながら、くしで髪を梳かす方もおられる。ラジオを聞いて過ごされる方もいる。調査訪問時、居室で本を読まれる利用者の様子がうかがえた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>物品の配置は安全に考慮し対応している。伝い歩きをされる方は手摺り等を利用し歩行支援している。</p>	